

No.	研究してほしいテーマ	現状と課題	大学が行う研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日時	掲載期限	備考
001	カキ殻の保管及び有効活用に関する研究	岐志漁港区域内にあるカキ殻保管施設（糸島漁業協同組合が整備）に保管するカキ殻（焼きカキ殻及びへい死カキ）について、保管中に発生する臭気・ハエの発生抑制策、及びカラス等によるカキ殻持ち去り防止策、カキ殻の有効活用法（陸上・海洋は問わない）を検討する。	①カキ殻保管施設における臭気・ハエの発生抑制 ②カラス等によるカキ殻持ち去り防止 ③カキ殻有効活用による一時保管量の減少・保管期間の短縮	行政	令和5年4月1日	令和7年3月31日	
002	ベンチャーキャピタル（VC）が集う、スタートアップフレンドリーな学術研究都市を創るための可能性調査	市では、第二次長期総合計画に基づき、ブランド糸島で活気あふれるまちづくりを進めるため、「未来を担う企業の創出と育成」や「企業から選ばれるまちの創出」、「新産業を創出する学術研究都市づくり」等に向けて取組を進めている。 当目的を達成するため、九州大学の知的資源を生かした新たな産業の創出やベンチャーの育成が求められており、そのためには起業または成長途中の企業等にアグレッシブな投資を行う「ベンチャーキャピタル（VC）」が必要であり、いかにベンチャーキャピタリストが集う街になれるかが重要なポイントである。 そこで本研究では、糸島の地で活躍するベンチャーキャピタルのスタイルと、高水準のスタートアップフレンドリーの組成の可能性とその手法に関して調査・研究を行うものである。	研究項目 1) 世界のサイエンスパーク等におけるVCの役割・意義について（事例研究） 2) VCの集積という観点における糸島の現状分析及び課題の抽出について 3) 糸島や九州大学の特長を活かしたスタートアップフレンドリーなVCの機能について 4) 3) を実現させるための具体的な手段・手法について	行政	令和5年4月1日	令和7年3月31日	
003	市民の人間動作特性に基づいたアプリケーション・HP開発	市民に密接にかかわる公共交通機関のDX化・ユーザーフレンドリーなアプリ開発ができていないため、高齢者が公共交通機関を活用することができず、自動車運転免許証を返納することができない。オンデマンドバスの会員登録が煩雑で、高齢者一人では会員登録が難しかったり、バスHPでは時刻表検索がしづらといった現状がある。高齢者をはじめとした全年齢が使いやすいアプリやHPの開発が必要ではないか。	年齢に応じた行動分析や視覚・触覚等五感の特性を研究により把握することで、科学的根拠に基づいたユーザーフレンドリーなアプリ・HP開発に役立てることが可能である。	市民個人	令和5年4月1日	令和7年3月31日	
004	アラカシを材料とした製炭における「火上げ」のメカニズムの解明	福岡市や糸島市の里山の山林資源（樹木）が利用されず、荒廃が進み、身近な生態系に様々な課題が生じている。製炭（宮崎県美郷町の宇能間備長炭の技術を利用）による持続的な森林資源の活用（調理用・防災ストック用・暖房用etc）により、里山の課題を解決する。良質製炭技術のネックは“火上げ”である。感覚的に知られていた職人の技術である、原木（アラカシ等の広葉樹）の「炭化のメカニズム」をより明らかにし、人と身近な自然の持続的かつ良好な関係を創りあげたい。	感覚的な技術（微細な火加減・材の状態）を数値化して、製炭を希望する者の参入を容易にする。可能であれば、「簡易的な炭窯の設置方法確立」や「山林所有者と製炭従事者を結びつけるコミュニケーション組織の構築」を合わせ、里山とその成果物が都市部にて利用されるシステムの構築を期待する。	市民個人	令和5年4月1日	令和7年3月31日	

No.	研究してほしいテーマ	現状と課題	大学が行う研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日時	掲載期限	備考
005	子どもの意見を幅広く聞き、子どもたちの未来のため、糸島市の今後のため活かしていく組織や仕組みづくりの研究	<p>子どもの権利条約にある子どもの権利のうち、育つ権利（もって生まれた能力を十分に伸ばしながら成長できること）、参加する権利（自由に意見を表し、まちづくり等に関わること）に関して声を上げようとしても、専門の相談機関は糸島市内には存在せず、子どもたちの声を聴く機会が少ないのではないかと感じる。</p> <p>子どもたちの意見を幅広く聞き、寄り添うことで、子どもたちの未来・市の持続的発展に資することが期待される。「幅広く聞くための組織づくり・仕組みづくり」「聞いた結果を解決につなげる効果的な仕組みづくり」を以下の視点から、作り上げていくことが重要である。</p> <p>視点① 未来に向かって新しい事にチャレンジしたい、育ち学ぶ環境について要望があるという、子どもたちの声を吸収する場所づくり</p> <p>視点② 糸島らしい、全国に例のない子どもの意見を聞く場所づくり</p>	<p>① 多くの子どもたちが気軽に自身や糸島市の未来の事を話す場ができることで、幅広い視点からの人づくり、まちづくりが可能となる。</p> <p>② 日頃考えている事を伝える場ができ、子どもたちの自信につながる。また、まちづくりへの参加を通じ、自己有用感が高まることが期待できる。</p> <p>③ 糸島に住み続けたい、住みたいという方が今まで以上に増加する。</p> <p>④ 自己実現のまち「いとしま」のイメージが広がり、一層のブランド化を図ることが可能になる。</p>	市民個人	令和5年4月1日	令和7年3月31日	
006	景観計画策定に向けた景観資源の発掘に関する研究	<p>2023年度糸島市 市民満足度調査では、糸島市のまちづくりにおける重要度について、2位に「豊かな自然を守る環境」(86.0%)、5位に「美しい街並みや良好な住環境」(84.0%)がランクインする等、市民が景観を重要視している点が見える。さらに、2023年には桜井神社と高祖神社が国の重要文化財に指定され、今後はそれらの歴史的な景観を面的に保全していく取り組みも重要ではないかと考えられる。</p> <p>一方で、雄大な背振山系やのどかな田園風景を背景に、美しい景観を損なうような屋外広告物も存在するため、それらを規制する条例が必要なのではないか。糸島市の景観資源の発掘に関する研究を大学と連携して取り組んでほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観を科学的にとらえることができる点</li> <li>・ワークショップ等により、景観資源の発掘が促進される点</li> <li>・学生の若さを生かした新たなアプローチ</li> </ul>	市民個人	令和6年4月1日	令和8年3月31日	
007	住民の生活を脅かす野生生物（コウモリ・ハビ・サルなど）	<p>伊都の杜において、コウモリが家に住みつき、軒先に落ちた糞により、住衛生環境が悪化したり、子どもがコウモリを触らないような対応に苦慮したりしている。</p> <p>また、ハビの出没により住民自ら退治したり、業者を呼び退治している。</p> <p>サルが庭先に現れ荒らしていくなどの被害が出ている状況にある。</p>	<p>糸島市において、住民の生活を脅かす生物が出現している原因を調査し、それらの生物がもともと生息しているエリアに住める環境を整うことを期待する。</p> <p>家に棲みつくコウモリについては、ハウスメーカーなどに相談しても、なかなか解決できず、苦慮していることから、家に棲みつかないような対策を住民と一緒に検討いただきたい。</p>	市民個人	令和6年4月1日	令和8年3月31日	
008	旧糸島郡内の製炭事業に関わる記録調査	<p>昔は、糸島の中山間地域では炭焼き（自然の摂理を利用した持続可能なエネルギーシステム）が行われ、それが生体系保全の力となっていた。現在、高齢化や人口流出により、中山間地域の里山林の維持管理は困難に直面しており、森林が持つ生態系サービスは劣化し、諸問題が生じている。そこで、時代に即した「新たな炭焼き」創造は課題解決の一助になるのではないかと考える。</p> <p>そのために、まずはかつての糸島での製炭に関わる情報（地域特有の製炭方法、道具、場所など）を収集し記録する必要がある。特に、「高度経済成長期のエネルギー革命」前後に労働従事した世代（2つの価値観を体験した世代）の証言記録は喫緊であると思われる。</p>	<p>得られた情報を生かし、時代に即した「新たな炭焼きモデル」を興し、課題解決につなげる。単なる経済的価値だけでなく、生物多様性の保持・防災・獣害減少・癒し効果・障がい者雇用の創出など、持続可能的に里山を利用する。</p>	市民個人	令和6年4月1日	令和8年3月31日	